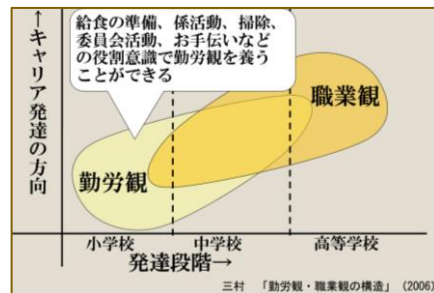




親子でキャリア教育

教育現場では、社会的要請を受けて、様々な新しい教育を取り入れています。国際理解教育、安全教育、防災教育、性教育、ICT教育、食育・・・等々、〇〇教育がカリキュラムの中に組み込まれています。その中の一つに「キャリア教育」があります。キャリアには職業や経歴という意味があるため、誤解を生じることがあります。キャリア教育を正しく理解し、上手に活用することで、子供たちの可能性をもっと引き出す可能性があります。

文科省は、キャリア教育を、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義しています。この「キャリア発達」ですが、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と定義されています。この「役割」に注目すると、家庭の中での子供たちの役割の姿が見えてきます。右図はキャリア発達の図を表していますが、

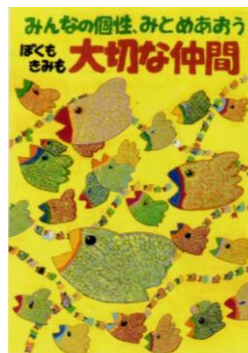


小学校時代は、勤労観を発達させる必要があります。そのためには、家庭でも「お手伝い」などで勤労観を養うことができます。お手伝いしてくれた子供に、「あなたのおかげで助かったよ。ありがとう。」などの声掛けによる承認によって、勤労観は強化されていきます。また、「キャリア」の語源は、後期ラテン語の Career=馬車などの乗り物の通り道、轍(わだち)が語源とされています。つまり、キャリア教育は、ただ未来を語ることでなく、過去から現在の自分の材料を集めて、未来の自分を作っていくことだとも言えるのです。

そこで、家庭でできることとして、普段の子供との会話の中で、「やりたいこと」や「楽しみ」を引き出し、主体的に目標を考えさせるきっかけづくりを行ってみてはいかがでしょうか。「挑戦してみたいことは何?」「あなたの得意なことを生かすには?」など、子供が前向きになれることを一緒に考えると、子供も自然と前向きな気持ちになります。それとは、逆に「今度は失敗しないように頑張らないとね。」「どうしてこれができいの?」などの声掛けは、子供がプレッシャーを感じたり、自分に対する自信を失ったりする原因になります。目標設定はあくまで楽しく、ポジティブなものにすることが大切です。目標が決まったら、それを実行できるような具体的な行動目標を作ればいいのです。成長が著しい小学生の段階でのキャリア教育は、「未来を自分らしく生きるための材料づくり」の基盤を作るためにとても重要です。子供たちが将来へ夢と希望を持てるよう、学校での活動と並行して家庭でもできることを実践しましょう。

わくわくチルドレン紹介

熊本市では、人権を考えるきっかけとするために、人権啓発に関するポスターや市などの作品を募集しています。その作品展の中の「絵・ポスターの部」で、5年生の木山そらさんが最優秀賞、6年生の古閑幸敏さんが優秀賞、5年生の遠山向日葵さんが入賞、「メッセージの部」で、2年生の山内花菜さんが入賞を果たしました。子供たちの活躍を嬉しく思います。ちなみに右の絵は、木山さんと古閑さんの作品です。



木山さん作



古閑さん作